

東日本大震災の心血管病発症への影響：性差の観点から

東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学

青木竜男、福本義弘、下川宏明

【背景】大震災後に伴い、これまで様々な心血管疾患が増加することが報告されているが、その性差に関する報告はない。本研究では、東日本大震災後に増加した心血管疾患の発症への影響を性差の観点から検討した。

【方法】宮城県の全 12 消防本部を対象に東日本大震災前後各 4 週間の救急車出動記録を調査し、震災後の心不全、急性冠症候群、脳卒中、心肺停止患者の発症数増加の性差を検討した。

【結果】調査期間中、16390 件の救急車の出動があり、男性は 8325 例、女性は 8065 例であった。調査対象 4 疾患の搬送件数は震災後に有意に増加していた[震災前 vs. 震災後：心不全 123 例 vs. 220 例 ($P<0.01$)、急性冠症候群 33 例 vs. 76 例 ($P<0.01$)、脳卒中 283 例 vs. 386 例 ($P<0.01$)、心肺停止 196 例 vs. 247 例 ($P=0.02$)]。心不全と急性冠症候群は男女ともに震災後に有意に発症数が増加したが[心不全 男性：55 例 vs. 116 例 ($P<0.01$)、女性：68 例 vs. 104 例 ($P=0.01$)、急性冠症候群 男性：24 例 vs. 47 例 ($P=0.01$)、女性：9 例 vs. 29 例 ($P<0.01$)]、脳卒中と心肺停止患者は、男性でのみ有意な増加を認め、女性での有意な増加は認めなかった [脳卒中 男性：151 例 vs. 223 例 ($P<0.01$)、女性：132 例 vs. 161 例 ($P=0.09$)、心肺停止 男性：99 例 vs. 134 例 ($P=0.02$)、女性：97 例 vs. 112 例 ($P=0.3$)]。

【結語】東日本大震災後、心不全、急性冠症候群の患者は男女ともに有意に増加したが、脳卒中と心肺停止は男性でのみ有意に増加した。

534/800 字